

平成 22 年度自然環境調査の概要について

1 鳥類・外来生物生息状況調査

(1) 調査目的

海上の森の生物多様性の保全と生態系の攪乱を防止するため、外来生物の進出状況を定期的にモニタリングするとともに、鳥類相調査及び鳥類の繁殖状況を調査する。

(2) 調査内容

耕地・水辺・森林等鳥類相の異なる複数の環境を含むようなセンサスルートを設定し、ルートセンサスによる鳥類相調査及び繁殖状況調査を実施。

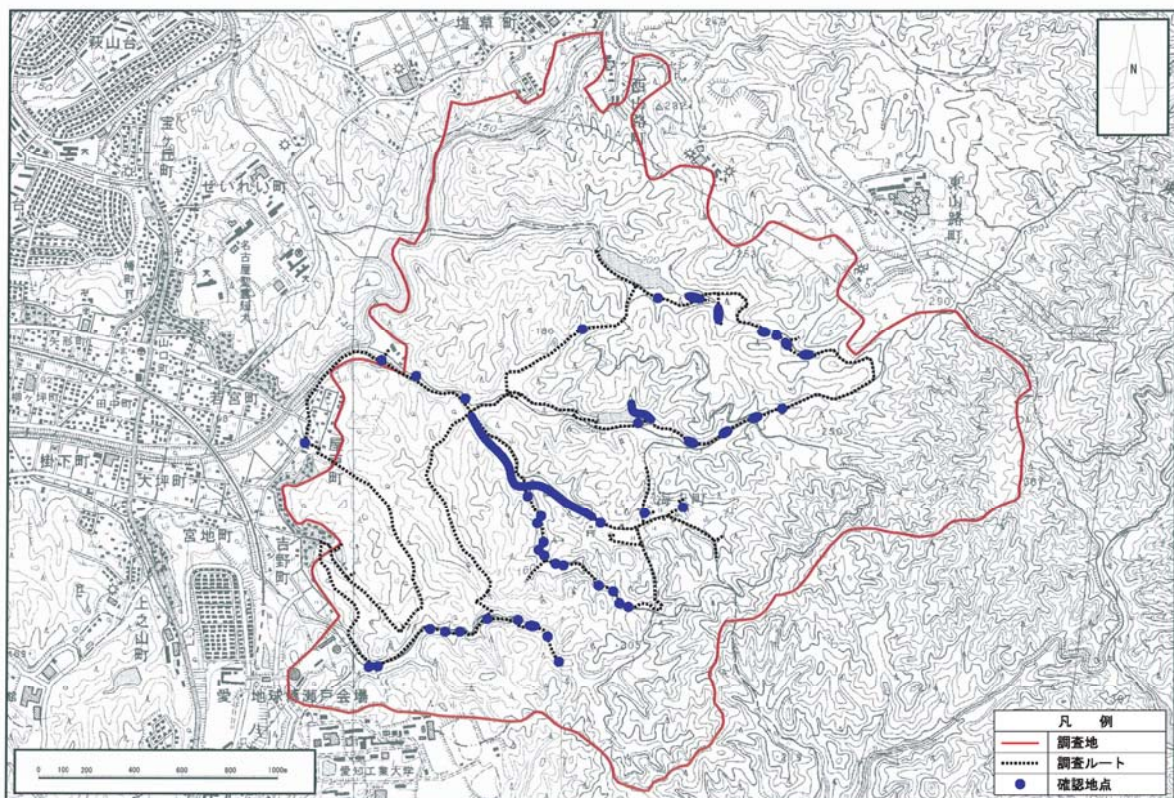
外来哺乳類についてはフィールドサイン調査及びライトセンサス調査（夜間調査）、外来魚類については投網やたも網による捕獲調査を実施し、それぞれ、結果から想定される農作物や生態系への被害とその対策について提言する。

(3) 確認状況

鳥類の繁殖状況として、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウの5種がランク4（「たぶん繁殖している」）であった。

また、外来哺乳類について、アライグマについては多くのフィールドサインが認められ、ハクビシンのフィールドサインも複数確認されている。

なお、今回の調査ではオオクチバスやブルーギルの存在は確認されなかった。



図：アライグマ フィールドサイン確認状況

2 希少動植物(ホトケドジョウ・ムササビ)調査

(1) 調査目的

里山活動と共存する保全を図るため、海上の森に生息する希少動物であるホトケドジョウ及びムササビの生息状況及びその環境をモニタリングする。

なお、愛知県レッドリストのランクは、ホトケドジョウが VU (絶滅危惧Ⅱ類)、ムササビは NT (準絶滅危惧種) である。

(2) 調査内容

ホトケドジョウについては、遊歩施設内の小渓流全流域を対象に、分布及び密度を把握するための全量捕獲調査及び、生息場所の環境変化を把握するために遊歩施設内の小渓流及び上流湿地の水位の連続測定を実施。

ムササビについては、目視による巣箱利用状況調査(追い出し調査及び生活痕跡の確認)に加え、温度センサーを巣箱に設置しての利用状況調査を実施。

(3) 確認状況

ホトケドジョウの全量捕獲及びムササビの目視による巣箱利用状況調査において、その存在は確認しているが、連続測定等の結果については現在解析中である。

3 猛禽類(オオタカ・ハチクマ) 調査

(1) 調査目的

里山活動と共存する保全を図るため、オオタカ・ハチクマ等の猛禽類の行動を把握する。また、オオタカの繁殖に配慮する。

なお、愛知県レッドリストのランクは、オオタカは NT (準絶滅危惧種)、ハチクマは VU (絶滅危惧Ⅱ類) である。

(2) 調査内容

海上の森全域の見通しの利く場所に観察地点を配置しての定点調査及び、繁殖状況の把握を目的とする踏査を実施。

(3) 確認状況

オオタカ：毎月、飛翔は確認されているが、繁殖にかかわる行動は確認されていない。

ハチクマ：毎月、飛翔が確認されており、コナラに営巣していることを確認。(確認できた雛数は1羽)

その他、ハヤブサ、サシバ、ノスリの飛翔が見られている。